

特定非営利活動法人 会員誌
ふれあいサポート館アトリエ



⇒E-mail fureainpo@gmail.com

⇒ホームページ
<http://www.fureai-support.jp/>



10・11月号
令和2年9月25日

■法 人 事 務 所 ・ ア ト リ エ TEL 0244 (36) 5420
〒976-0042 相馬市中村字北町1-8 FAX 0244 (26) 5424
●デイサービス友遊(北 町) TEL 0244 (26) 5424
●デイサービス友遊(南飯淵) TEL 0244 (36) 3582
●相馬市中央児童センター(ポニー・ことり) TEL 0244 (35) 2008
●飯豊小放課後児童クラブ(ひまわり) TEL 0244 (37) 8870
●日立木小放課後児童クラブ(めだか) TEL 0244 (35) 3400
●磯部小放課後児童クラブ(げんき) TEL 0244 (32) 1787
●八幡小放課後児童クラブ(なのはな) TEL 0244 (26) 9011
●相馬こどものみんなの家 TEL 0244 (35) 4700

令和2年度の新学期が、9月より始まりました。

東日本大震災から9年が過ぎ、たくさんの方々が様々な試練に耐え、新しい道を歩き出している途上で昨年は、10月の台風19号に続き、その後の大雨の被害で陶芸小屋が浸水し、多くのを労を費やした。やっと気持ちを新たに活動していた矢先、今まで経験したことのないコロナウイルス感染症の禍により教室も3月から8月まで半年間も、活動が中止されました。

9月6日の新入会員の入会式・顔合わせ説明会に始まって、11日・16日からは、待ちに待った教室の再開にみんな イキイキ キラキラ いい笑顔 です。



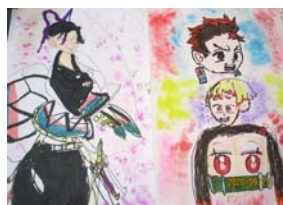
めだまやき やいたよ



小さな美術館の絵



墨絵に挑戦



イラスト画



中学生コース

アトリエって・・・

県指定の史跡三の丸(相馬藩のご家老岡田様の居宅址)に建てられた北町アトリエは、築38年になる。大倉ダム建設で水没する民家5軒分と原町区・相馬の古い民家の全部で7軒分の解体した何百年物の材料を譲り受け、蓮池の北の高台に古民家風に建てられたアトリエである。春は桜、夏は涼しく、秋は紅葉、冬は白鳥・・・と自然豊かな場所にある。

石垣のある坂道を登り、アトリエの玄関に入ると、倉本先生が描いた大作「松川浦中州の松と少女」の絵が迎えてくれる。描かれた松は、東日本大震災の時、中州ごとすっかり流されてしまい、貴重な記録の作品になってしまった。キャンプで探検をした中州も松も消滅してしまったが、いつまでもあの光景は、記憶からは消えない。

アトリエには、3歳から小学6年生までのお友だちが、かがそうけいきょうじつで、おじいちゃん・おばあちゃんには、デイサービスで楽しんでいただいている。「きょうは何をするんだろう?」と、ワクワク・・・アートを通して学びながら、興味と好奇心がさらに膨らんで、創造と想像を楽しめる場所になっている。第2アトリエ(板画館)も年内に完成予定です。ワクワクの空間がまた増え、ワクワク・・・

10・11月の活動予定 & 事務連絡

◎きょうじつは

- ・陶芸・お皿作り・ペンダント作り
- ・秋野菜収穫 or りんご狩り

ミルキー・5歳の誕生日
10月18日おめでとう!

◎ご請求は

- ・10月は月会費に諸経費
- ・11月は月会費に
アルバム代3300円を加えて
ご請求します。(9月に自振手続き完了しなかった
新入会員の方は年会費もご請求します。)

今年度のおやつは・・・手作りおやつで・・・

戦後、物が乏しい時代から高度成長期に入り物が豊富になり、何でも手軽に便利に手に入る時代。食においても飽食の時代。時代が変われば食生活も変わっていくのは当然と思うが、おやつへの価値観が変わってきました。おやつばかりでなく、日本の食事情が変わってきています。これでもかこれでもかと美味しいものが溢れ、いつも満腹状態で、美味しいものでもさほど美味しいと感じない。食べ残しゼロ運動に自治体あげて参加する程、昨今の食事情は日本中の多くの人が憂いている問題になっています。

絵画教室のおやつもそんな社会の状況を把握しながら出来るだけ手作りで栄養バランスを考えたもの・・・を基本に、毎回手間をかけた用意していますが、満たされ過ぎているのか、食べなくていい・・・これは嫌い・・・と、スナック菓子なら喜んで食べるが、仕方ないから食べてあげると子どもも目につきます。おやつばかりでなく日常全般に物が溢れているので、ありがたみを感じられないのが現状です。子ども達の感動体験が乏しくなっていることへの危機感を痛切に感じる最近、とても憂える子どもの行動・・・です。

補助食としてのおやつの役割は終わったとしても、心のバランスを考え、子どもの育ちを考えるうえで、教室でのおやつ役割は大きく、今後もおやつは継続していきたいと思えます。コロナ問題もあり、おやつをどうするか苦慮し、検討を重ねた結果、自分の子供にだったら・・・という想いを優先して手作りおやつを提供します。旬のものの美味しさを知る事や伝統食の継承で、子ども達の心に味の思い出つくりの一角になればと願います。今年度もご家庭でも御一考いただければ幸いです。

かがそうけいきょうしつ 中学生コースは・・・

南飯渕アトリエに中学生コースが始まって3年目。

中学生になっても絵画教室にいきたいけど、部活動で時間取れないと…しかし、2年前より週1回部活が休みになり、水曜日に特別コースを開講。今年度は新1年生も加わりスタートしました。

中学生の、子どもから大人へと心身共に大きく成長していく姿はたかましい。絵の制作でも、この2年間後輩たちから一目おかれ、自分の世界をこつこつと作り上げていった。努力のタッチが画面からも見てとれる。前回の展覧会の作品に表現された主体的な学びが、深い学びに高まっていることを、じっくり皆さんに見ていただけなかったのが残念でした。早くコロナ問題が収束して今年度はぜひ展覧会が開催できますように祈ります。

絵を上手く描かせることではなく、教科横断的な視点で生活や社会と豊かにかかわる態度を育成できたと私もスタッフも誇りに思う。時間が無いながらもアトリエに来て、自分の空間を作り時に戸惑い、時に自分にも回りにも反発しながら、少しずつ新しい自分を形作っていく。自分らしさを発見して実現していくための入り口にたっている中学生の大事な一時を、適切なアドバイスをしながら見守りたいと思う。

思春期の自分らしさを実現するという中学生の生みの苦しみを見守る親にとっても無関係ではなく、戸惑われるご家族は少ないのでは…私も子育て真最中にはそうだった。子ども以上に悩み苦しんでいた気がする。子供の発達段階毎の特徴と課題を理論で知ただけでも親の気持ちは楽になったことを思い出される。

目には見えない大切なものに気づかせてくれる子ども達。そんな子ども達にやる気を出すための仕掛けときっかけ作り、遠い最終ゴールではなく、2時間の教室での時間の逆算、目の前に分かりやすいもうひとつのゴールを設け応援したいと思う。

豊かな情操と豊かな心をもった人に
成長できますように
中学生の大きな飛躍を今年度も
楽しみにしています。(まり子)

収穫の秋

体験活動を行うこと

令和元年度まで654回実施。

田植え体験は16年間

稲刈り体験は4年間行いました。



今年度はコロナ問題で学校も休校。

絵画教室も休まざるを得ず、田植え体験はできず残念でした。

世界中でコロナ問題に右往左往していますが、毎年田んぼを管理していただいている新田の高橋さんをお願いし、稲は田んぼで例年通り実りの秋を迎えました。

新米オニギリのお味をお楽しみに・・・

高橋さんはじめ、中野さん、阿部さん、山田さん、水野さん
他、田植え稲刈りに関係された皆様に、御礼申し上げます。

絵画教室に通った7年間で学んだこと

佐藤 菜々香 (中村一中3年)

私は、幼稚園の年長から小学校の6年生までの7年間、絵画教室に通いました。その中で、絵を描くことの楽しさはもちろん、人との関わり方も学ばせていただきました。

特に心に残っているのは、様々な年齢の方々と関わることができたことです。普段、学校に通っている私たちは、違う年齢の人と接する機会がありません。しかし、絵画教室では、年齢や学校の垣根を越えて、たくさんの人と関わることができました。

私が小さかった頃は、上級生に優しくしていただき、安心して絵画教室に通っていたことを覚えています。そんな優しくしてもらった記憶があるからこそ、私自身が上級生になった時、下級生にあたたかく接することができたのだと思います。また、子ども同士だけの関わりだけでなく、お年寄りの方々と触れ合うことができ、私のコミュニケーション力がついたと思います。小学校低学年のころは、「百人一首かるた」を教えていただきました。高学年になった時には、味噌づくり体験に参加しました。私は、自分の祖父母と関わる機会が多いのですが、様々なお年寄りの方と接することで、それぞれのお年寄りの方々に寄り添って話をすることの大切さを学ぶことができました。このことを意識することで、自己中心的な話題にならず、お互いに心地よい雰囲気をつくることができました。このような経験から相手意識を持って話をすることの大切さや、交流したお年寄りの人生経験の話から様々なことを吸収することができました。

また、絵画教室に通っていた7年間で、私の気持ちの持ち方も変わったと思います。通い始めたばかりの私は、震災によって大きく変わった生活環境に慣れず、表情も硬いことがありました。しかし先生方や周りの友達にあたたかく接してもらったり、豊かな自然と触れ合わせてもらったりすることで、徐々に環境に馴染んでいくとともに、思いやりの気持ちを持って、活動することができるようになりました。

もうひとつ鮮明に覚えていることがあります。小学校低学年の頃おやつ時間に、男子の何人かがまり子先生に「先生、食っていいですか?」と聞いたときのことです。まり子先生は「食ってはダメ。食べてはいいよ。」とおっしゃいました。私はこのことを、後からよく考えてみました。乱暴な言葉遣いをしていることを叱らないで訂正しただけでなく、食べ物みんな大切な命をいただいていることを、遠回しに教えて下さっていたのだなと思いました。言葉遣い一つで品位や心を伝えているまり子先生の接し方が、とても印象的でした。

私は将来、小学校の先生になろうと思います。そう考えるようになったのも、絵画教室で学ぶことができたからだと思います。絵画教室で学んだ「思いやりの気持ちを持って接すること」「相手意識を持って話をすること」「叱らずに大事なことを教えていくこと」を大切にして、夢に向かって歩いていきたいと思っています。

